

令和6年度病床機能転換事業計画報告書

- 1 病院名： 藤間病院
- 2 所在地： 埼玉県熊谷市末広二丁目137番地
- 3 病床機能転換概要

転換前病床機能区分	転換病床数（床）		整備事業内容	整備事業開始（着工）予定年月	整備事業完了（竣工）予定年月
	地域包括ケア	回復期リハ			
急性期	2	-	新築（建替）	2024年10月	2026年11月

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

4 提供する医療の内容

【転換前】

急性期の患者を主な対象とした一般病棟として運営している。婦人科および整形外科で手術等の治療が必要な患者を中心に、比較的短い期間で入院診療を終了することを前提とした医療提供を行っている。

【転換後】

急性期に加え、回復期の患者を主な対象とした地域包括ケア病床を充実させて運営する。急性期の治療が完了し症状の落ち着いた患者について、在宅復帰を視野に入れて機能の回復、向上を目指すと共に、地域の施設や自宅等で医療的管理を受けている患者の受入れを積極的に行い、機能回復および向上を目指した医療提供を予定している。

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

熊谷市および近隣地域住民の安心と健康を守るため、救急医療および専門医療に取組むと共に、地域医療を支える役割・機能を担う。

○新たに担う役割

上記の役割に加え、リハビリテーション機能を強化し、症状の落ち着いた患者について、機能回復・向上を目指した医療を提供する。

○将来の方向性

高齢化が加速化する環境において、急性期医療の対応と共に、治療後における機能回復・向上を目指した医療に対する需要は更に高まるものと予想される。これに応え

るべく、退院後の患者をフォローする機能を合わせ、安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたい。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

2021年4月より稼働55床のうち10床を地域包括ケア病床として運営しているが、多くが自院の外来からの入院および一般病床からの転床患者であり、他の急性期病院における急性期後の患者受入れや施設・自宅からの直接入院は限定的とならざるを得ない状況だった。

今後は、新病院建替えを機に地域包括ケア病床を2床転換し、地域の病院・施設等に対し、新たに人員を採用し体制を強化した地域医療連携室の活動を強化することにより、地域における機能回復・向上を求めている患者に応えられるよう取り組んでいきたい。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括ケア病床入院医療管理料2	算定開始予定年月 2026年 11月
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
【転換前】 ○2023年度(4~3月)新入院患者数 37人 ・自院外来から受入 4人(10.8%) ・一般病床から転床 33人(89.2%)	【転換後】 ○移転後巡行目標稼働 50人前後 ・一般病床40人前後 ・地域包括ケア病床10人以上
医療(介護)連携見込み (※具体的に記入してください。)	
【転換前】 ○紹介元： 【病院】 熊谷総合病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉医科大学国際医療センター、太田記念病院 【施設】 社福)翠浩会・新光苑 ○紹介先： 【病院】 熊谷総合病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉医科大学国際医療センター、太田記念病院	【転換後】 ○紹介元： 【病院】 熊谷総合病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉医科大学国際医療センター、太田記念病院 【施設】 社福)翠浩会・新光苑 ○紹介先： 【病院】 熊谷総合病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉医科大学国際医療センター、太田記念病院

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア入院医療管理料1」等該当するものを記載。

6 医療従事者

職種	転換前の人員（人）			転換後の予定人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	8	47	6.6	<u>11</u>	47	6.6
看護師	18	12	6.7	<u>33</u>	12	6.7
准看護師	9	8	4.3	9	8	4.3
看護補助者	8	5	3.7	8	5	3.7
理学療法士	3	0	0	<u>4</u>	0	0
作業療法士	0	0	0	0	0	0
言語聴覚士	0	0	0	0	0	0
放射線技師	6	1	0.3	6	1	0.3
臨床検査技師	11	16	6.0	11	16	6.0
薬剤師	4	0	0	4	0	0
事務	34	9	4.7	34	9	4.7
その他	8	1	0.6	8	1	0.6
計	109	99	32.9	109	99	32.9

(※増減が生じる医療従事者はアンダーライン)

確保状況・確保策、確保スケジュール

(※変動が生じる予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。)

【医師】

整形外科・婦人科・内科の医師を各1名ずつ採用予定。

【看護職】

安定して高稼働運営を行うために、看護職員を15名採用予定（新病院稼働前から順次稼働に合わせて採用を実施）。

正看護師・准看護師・パート等の配分は今後検討。

【リハビリ職】

理学療法士を1名採用予定。

7 主な病院内施設・設備

転換前	転換後
地域包括ケア病床 10 床 病棟 1 階 ・ 1 床室 1 室(地域包括ケア入院医療管理料 2) ・ 4 床室 1 室(地域包括ケア入院医療管理料 2) 病棟 2 階 ・ 1 床室 1 室(地域包括ケア入院医療管理料 2) ・ 2 床室 2 室(地域包括ケア入院医療管理料 2) 急性期一般病床 45 床 病棟 1 階 ・ 1 床室 6 室(急性期一般入院料 6) ・ 2 床室 2 室(急性期一般入院料 6) ・ 4 床室 2 室(急性期一般入院料 6) 病棟 2 階 ・ 1 床室 8 室(急性期一般入院料 6) ・ 2 床室 6 室(急性期一般入院料 6) ・ 3 床室 1 室(急性期一般入院料 6) ・ 4 床室 1 室(急性期一般入院料 6) 休床 51 床 許可病床 106 床 ナースステーション 2 室 機能訓練室 2 室 手術室 2 室 診察・処置室 12 室	地域包括ケア病床 <u>12 床</u> 病棟 <u>3 階</u> ・ 4 床室 <u>3 室</u> (地域包括ケア入院医療管理料 2) 急性期一般病床 45 床 病棟 <u>3 階</u> 休床 51 床 (5 床稼働予定) 許可病床 106 床 ナースステーション <u>1 室</u> 機能訓練室 <u>1 室</u> 手術室 2 室 診察・処置室 <u>11 室</u>

(※増減が生じる施設・設備は、アンダーライン等でわかるよう記載してください。)

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○市町村・ケアマネージャーとの連携状況

熊谷市および地域のケアマネージャーには、日々協力をいただきながら必要な情報の交換、相談等連携を図り、良好な関係を築かせていただいている。

地域包括ケア病床増床後も、引き続き現在の関係を維持し、協力して地域のために取り組んでいきたい。

○待機患者の状況

現在は、病床稼働率は低調に推移し、入院が必要な患者は待機なく受け入れることは可能となっている。

地域包括ケア病床増床後は、在院日数の長期化により病床稼働率の上昇と待機患者の発生が予想されるが、地域の医療機関や施設等との連携を密にし、退院調整の円滑化を図り、需要にこたえられる体制の構築を目指す。

○在宅への移行

現在は、退院時の指導や受入れ施設との連携により、円滑な在宅移行をサポートしている。

地域包括ケア病床増床後は、退院時の指導や受入れ施設との連携をさらに強化し、在宅移行のサポートに取り組んでいきたい。

病床機能転換 病床機能報告調書（現状と病床機能転換後）

施設名	藤間病院
-----	------

1 現状（令和 6年 8月 9日時点）

病床機能区分	病棟名	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数	備考
高度急性期					
急性期	第一病棟	一般	急性期一般入院料6	45	
回復期	第一病棟	一般	地域包括ケア入院医療管理料2	10	
慢性期					
その他 (休棟等)	休棟（急性期）			51	
計				106	

2 病床機能転換（整備事業実施）後

病床機能区分	病棟名	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数	備考
高度急性期					
急性期	第一病棟	一般	急性期一般入院料6	43	
回復期	第一病棟	一般	地域包括ケア入院医療管理料2	12	
慢性期					
その他 (休棟等)	休棟（急性期）			51	5床稼働予定
計				106	

3 救急告示病院告示・在宅療養（後方）支援病院届出状況

項目	有・無	無の場合取得予定等
救急告示病院の告示の有無	無	予定なし
在宅療養（後方）支援病院の届出の有無	有	

4 特記事項

--